poco
ZEFIRO
カトリック桂教会広報誌

Vol. 21
2023年　クリスマス号
編集・発行
カトリック桂教会広報部

主のご降誕
おめでとうございます

勝利の太陽とイエス・キリスト

担当司祭　モンテロ ガルシア ホルヘ

聖書は神聖な本であり、歴史を教えようとする本ではありません。したがって、それは象徴の本です。確かに聖書の物語の中には、多くの歴史的な出来事がありますが、聖書の目的は、歴史について語ることではなく、神と人間との関わり方について語ることです。私たちが歴史に関する本、たとえば日本の歴史の本を読むとき、これらの物語には過去に起こった歴史データが含まれており、私たちは過去に起こった出来事を覚えていますが、それらは単なる過去の出来事であり、今はもう起こっていない。

しかし、私たちが聖書を読むとき、私たちは過去の出来事を読んでいるだけではなく、神が過去ではなく、今ここで私たちにどのように関係したいと望んでいるのかを、読んでいます。

今日は、イエスの誕生に関する聖書の記述に焦点を当て、神が今日、私たちに、何を言いたいのかを探っていきたいと思います。イエスの誕生の物語はここには書きませんが、12月25日夜半の福音朗読を、よく読んでおくことをお勧めします。（ルカ　2・1～14）

私たちが主の誕生の物語を読むとき、私たちは、二千年前に起こった出来事を読んでいるだけではなく、何よりも神が今日、私たちの人生にどのように生まれることを望んでいるのか、を読んでいます。

12月25日のクリスマスミサに行き、イエスの誕生の朗読を聞くとき、その出来事は、私たちの人生に、何らかの影響を与えるでしょうか。

それとも、私たちはずっと前に起こった、今は私たちにとって重要ではない出来事を単に聞いているだけなのでしょうか。

私たちが神の言葉を聞くとき、特にイエスの誕生に関する朗読を読むとき、それは毎日起こり得る出来事です。つまり、イエスの誕生は二千年前の12月25日にだけ起こったことではなく、私たちが心を開いて、私たちの人生の中にキリストが生まれてくれる限り、今日も起こり続けている出来事なのです。

実際、イエスがいつ生まれたのかは、実のところわかっていないため、12月25日という日付はいくぶん象徴的です。しかし、12月25日がイエスの誕生の日として定められたという事実には、重要かつ深い象徴性があります。

キリスト誕生の何世紀も前の古代人は、12月25日に「勝利の太陽」(sol invictus)を祝いました。12月21日は冬至、つまり一年で夜が最も長く、したがって昼が最も短い日です。古代の人々は農業で生計を立てており、生き残るためには一年の季節を理解し、適切な時期に種をまき、収穫することができなければなりませんでした。

農耕で生計を立てていた古代の人々にとって、太陽、雨、大地といった自然の要素は、最も重要なものでした。現代の私たちにとって、寝るとき、明日太陽が昇るかどうかなど考えません。私たちにとって、毎日太陽が昇ったり沈んだりするのは普通のことです。しかし、古代の人々にとって、彼らの世界観の中で、太陽は星ではなく、むしろ生命の象徴であったため、太陽は毎日夜と戦って、翌日上る必要がありました。その意味では、一年で最も夜が長い冬至は、太陽が夜との戦いに負けているように見え、弱い太陽が少しずつ夜に負けているように見えました。

そして、12月21日から3日後の24日までは、太陽が、夜に負けているように見えましたが、12月25日からは、昼が少しずつ、夜よりも長くなり始めたため、太陽が夜に勝つようになりました。これは勝利の太陽、夜に打ち勝ち、冬至の大きな戦いから勝利を収めた太陽の象徴です。

古代の人々にとって、この日は非常に重要な祝日であったため、教会は古代において、すでに重要であったこの日を取り上げ、その日を象徴的な日として、キリストの誕生の日とすることにしました。私たちはキリスト教徒として、12月25日は勝利の太陽の祝いではなく、むしろイエスの誕生として祝います。暗闇に対する神の勝利を祝い、神が人間になることを望んだことも祝うため、この日は象徴的な日です。

私たちは神がこの世に生まれ、私たちと共に生きていることを祝っています。

古代の人々が勝利の太陽の祝いを祝ったことから私たちが何かを学べるとすれば、それは、彼らにとって太陽が、本当に夜を打ち破り、そのおかげで、毎日を生きることができたということです。つまり、彼らにとって勝利の太陽は、過去の出来事ではなく、毎年、そして日々の出来事だったのです。

私たちキリスト教徒にとって、キリストの誕生は過去のことではなく、日常の出来事です。

今年のクリスマスに、自分自身に問いかけてください。

あなたは本当にキリストが、あなたの人生に、あなたの心の中に、あなたの家族の中に、あなたの社会の中に、生まれてほしいと思っていますか。それとも、クリスマスは過去に起こったことで、今はただ楽しいから祝うだけなのでしょうか。

一緒にクリスマスを祝いましょう。

そうすれば、私たちの人生にキリストが生まれ、このようにして、私たちは真の幸せを見つけ、それを隣人と分かち合うことができますように。

クリスマス おめでとう ございます!